

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月9日

【四半期会計期間】 第76期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 ニチレキ株式会社

【英訳名】 NICHIREKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小幡 学

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部長 後藤 武士

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区九段北四丁目3番29号

【電話番号】 03-3265-1511

【事務連絡者氏名】 管理本部経理部経理課長 益子 剛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第75期 第1四半期 連結累計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	10,563	11,727	62,919
経常利益又は経常損失( )	(百万円)	273	132	5,731
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失 ( )	(百万円)	209	2,693	3,589
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	470	2,747	2,837
純資産額	(百万円)	49,580	49,267	52,889
総資産額	(百万円)	63,275	65,303	70,297
1株当たり当期純利益 又は四半期純損失( )	(円)	7.29	93.96	125.18
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	78.4	75.4	75.2

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第76期第1四半期連結累計期間及び第75期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第75期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続きました。しかし一方で、通商問題の動向、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等により、景気の先行きは依然として不透明な状況にありました。

当社グループを取り巻く環境につきましては、公共投資は底堅く推移しているものの、原油価格の高騰など原材料価格の変動や受注競争の激化など、引き続き厳しい状況にありました。

当社グループはこのような環境の中で、中期経営計画『Next 2020』の4年目として「市場の拡大と深耕」を最重点課題とする成長戦略に基づき、各施策に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は11,727百万円（前年同四半期比11.0%増）、営業損失は235百万円（前年同四半期は営業損失340百万円）、経常損失は132百万円（前年同四半期は経常損失273百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,693百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失209百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

#### （アスファルト応用加工製品事業）

アスファルト応用加工製品事業につきましては、自社製品および工法の設計・受注活動を推進、経費の削減等に努めてまいりました。当第1四半期連結累計期間の売上高は4,077百万円（前年同四半期比11.9%増）、セグメント利益は417百万円（前年同四半期比41.6%増）となりました。

#### （道路舗装事業）

道路舗装事業につきましては、発注物件への工法提案や受注活動と工事の着実な執行に加え、原価管理の強化を進めてまいりました。当第1四半期連結累計期間の売上高は7,577百万円（前年同四半期比10.7%増）、セグメント利益は11百万円（前年同四半期はセグメント損失75百万円）となりました。

#### （その他）

その他につきましては、不動産賃貸収入などにより、売上高は72百万円（前年同四半期比2.1%増）、セグメント利益は52百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

総資産は、前連結会計年度末に比べて4,993百万円減少し、65,303百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が6,008百万円減少、現金及び預金が209百万円、未収還付法人税等が391百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて1,372百万円減少し、16,035百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が1,998百万円、未払法人税等が1,312百万円、賞与引当金が398百万円減少、未払金が2,359百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて3,621百万円減少し、49,267百万円となりました。これは、利益剰余金が3,568百万円減少したことなどによるものです。

## (2) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は159百万円であります。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,685,955	31,685,955	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	31,685,955	31,685,955	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年6月30日		31,685		2,919		2,017

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,013,800	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,654,700	286,547	-
単元未満株式	普通株式 17,055	-	-
発行済株式総数	31,685,955	-	-
総株主の議決権	-	286,547	-

(注) 1 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式が69株含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) ニチレキ(株)	東京都千代田区九段北 四丁目3番29号	3,013,800	-	3,013,800	9.51
(相互保有株式) 伸和化工(株)	群馬県高崎市足門町 39-2	400	-	400	0.00
計	-	3,014,200	-	3,014,200	9.51

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,677	19,886
受取手形及び売掛金	18,342	12,334
電子記録債権	2,990	2,405
商品及び製品	985	1,015
未成工事支出金	286	516
原材料及び貯蔵品	960	808
未収還付法人税等	29	420
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	77	77
その他	239	411
貸倒引当金	6	3
流動資産合計	43,582	37,872
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,162	6,140
機械装置及び運搬具（純額）	3,426	3,349
土地	5,500	5,500
リース資産（純額）	281	332
建設仮勘定	28	44
その他（純額）	626	612
有形固定資産合計	16,027	15,979
無形固定資産		
その他	680	658
無形固定資産合計	680	658
投資その他の資産		
投資有価証券	5,239	5,269
関係会社出資金	434	805
関係会社長期貸付金	673	673
繰延税金資産	534	535
長期預金	2,820	3,220
その他	568	551
貸倒引当金	243	243
投資損失引当金	20	20
投資その他の資産合計	10,007	10,793
固定資産合計	26,714	27,431
資産合計	70,297	65,303



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,580	5,582
短期借入金	700	700
1年内返済予定の長期借入金	6	6
未払金	2,619	4,979
未払法人税等	1,349	37
賞与引当金	863	464
その他の引当金	147	60
その他	1,505	1,714
流動負債合計	14,771	13,544
固定負債		
長期未払金	6	5
リース債務	246	288
長期預り金	48	48
繰延税金負債	477	377
環境対策引当金	0	0
退職給付に係る負債	1,691	1,605
資産除去債務	132	132
長期借入金	33	31
固定負債合計	2,636	2,491
負債合計	17,407	16,035
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,919	2,919
資本剰余金	2,017	2,017
利益剰余金	47,287	43,719
自己株式	1,779	1,779
株主資本合計	50,445	46,877
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,205	2,152
為替換算調整勘定	12	18
退職給付に係る調整累計額	226	218
その他の包括利益累計額合計	2,444	2,390
純資産合計	52,889	49,267
負債純資産合計	70,297	65,303

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	10,563	11,727
売上原価	8,820	9,701
売上総利益	1,742	2,026
販売費及び一般管理費	2,082	2,261
営業損失( )	340	235
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	75	81
持分法による投資利益	-	12
その他	6	12
営業外収益合計	85	108
営業外費用		
持分法による投資損失	8	-
為替差損	8	4
その他	0	0
営業外費用合計	18	5
経常損失( )	273	132
特別利益		
固定資産売却益	7	3
その他	0	0
特別利益合計	7	4
特別損失		
固定資産除却損	3	1
独占禁止法関連損失	-	2,577
その他	-	0
特別損失合計	3	2,580
税金等調整前四半期純損失( )	268	2,708
法人税、住民税及び事業税	48	58
法人税等調整額	108	73
法人税等合計	59	14
四半期純損失( )	209	2,693
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	209	2,693

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純損失( )	209	2,693
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	289	52
為替換算調整勘定	28	1
退職給付に係る調整額	0	7
持分法適用会社に対する持分相当額	-	4
その他の包括利益合計	261	53
四半期包括利益	470	2,747
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	470	2,747

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間の末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
受取手形	306百万円	159百万円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間において完成する工事の割合が大きいいため、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間における売上高に比べ、第3四半期連結会計期間から第4四半期連結会計期間における売上高が多くなるといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
減価償却費	424百万円	501百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	774	27	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	917	32	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,645	6,846	10,492	71	10,563	-	10,563
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,774	-	1,774	14	1,789	1,789	-
計	5,419	6,846	12,266	86	12,352	1,789	10,563
セグメント利益又は損失 ( )	294	75	218	51	270	611	340

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 611百万円にはセグメント間取引消去 22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 589百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	アスファルト 応用加工製品 事業	道路舗装 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,077	7,577	11,654	72	11,727	-	11,727
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,981	-	1,981	15	1,996	1,996	-
計	6,058	7,577	13,635	87	13,723	1,996	11,727
セグメント利益又は損失 ( )	417	11	428	52	480	715	235

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、損害保険代理事業等であります。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 715百万円にはセグメント間取引消去 29百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 686百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純損失( )	7.29円	93.96円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (百万円)	209	2,693
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失( ) (百万円)	209	2,693
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,672	28,672

(注) 当第1四半期連結累計期間及び前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

ニチレキ株式会社  
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	千葉茂寛印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	高橋秀和印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチレキ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチレキ株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期連結財務諸表等に添付される形で当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。